

学校生活（R 6年度）

行事・部活など

土木建築系の外部連携学習

「3年生の就業体験（6月10～12日）」

6月10日から12日の3日間、土木建築系の3年生17名が飯山市の(株)フクザワコーポレーション様のご協力、ご指導により就業体験を行いました。

1日目の午前は同社に入社し活躍している本校OBや若手先輩社員から、土木建設分野の仕事について紹介の講義、午後は木島平村上千石に構築中の大型砂防えん堤工事の現場見学を行いました。地元住民を土砂災害から守るために設置される幅長200mを超える大型えん堤は迫力があり、重量構造物を支えるために行う地盤改良の様子を間近で見学しました。また、現場で実際に稼働するICT施工重機についても説明を受け、ICT技術による省力化と効率化が工程管理、品質管理に活用されている現状を実感しました。

2日目の午前は、コンクリートの受入検査を体験実習、午後は丁張設置実習でした。構造物の主要材料であるコンクリートの特性を知るとともに、現場でおこなう生コンの受入れ検査は、現場を管理監督する代理人の主要な業務であり、より良いものづくりのための品質管理の1つに触れた体験です。丁張（ちょうはり）は、構造物の設置位置を地表面に示したり、地表面を成形する際の地面の高さや勾配を示すため地表面に設置する目標物のことです。この目標物自体の位置や形状が設計図面と違くと、目的とは違う構造物が出来てしまいます。建設分野では主要な作業のひとつで、班ごとに分かれた設置実習を協力し合いながら熱心に取り組みました。

3日目の午前は、飯山市戸狩の道路改良工事の現場見学と重機操作体験をおこない、午後はまとめの講義をしました。普段目にすることの多い道路改良の工事現場ですが、工期内に設計図通りの工事を安全に行うため、さまざまな工程と段取りをおこない、作業の進行に伴い刻々と変化する現場の状況を把握し対応する様子を見学しました。まとめでは、振り返りの発表をおこない、建設分野の仕事について理解を深めました。

地元で活躍する企業での就業体験は、地域を守り整備する役目を担う土木建築分野について再確認する場であり、そこで求められる知識と技術の一端に触れることのできた貴重な学習でした。

